

情緒的・手段的ソーシャルサポートと自殺死亡リスクとの関連に関するコホート研究

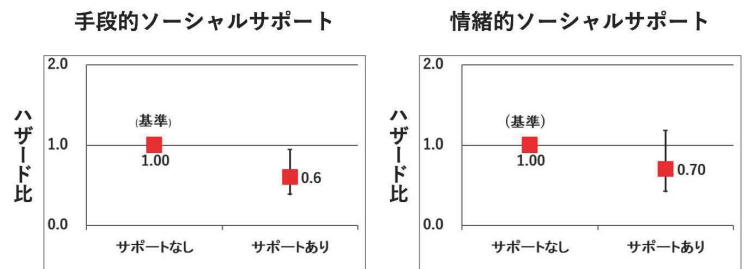
The association between emotional and instrumental social support and risk of suicide death:
A population-based cohort study

2019 年 Journal of Psychiatric Research 発表

手段的ソーシャルサポートがある人では自殺死亡リスクが有意に低い

自殺の予防においてソーシャルサポートが重要であるとされていますが、どのような種類のソーシャルサポートが自殺の予防と関連しているかについては、よくわかっていませんでした。

そこで、前向きコホート研究を行い、ソーシャルサポートの内容によって2つのソーシャルサポート（情緒的・手段的）に分けて、自殺死亡リスクとの関連について検討を行いました。その結果、手段的ソーシャルサポートがある人では自殺死亡リスクが低くなることが分かりました。また、統計学的に有意な差は認めませんでしたが、情緒的ソーシャルサポートがある人においても自殺死亡リスクが低くなる傾向がありました。



研究のデータについて

本研究は、2006 年 12 月に実施した大崎市民健康調査のデータを用いて分析を行いました。大崎市民健康調査は調査開始時点で 40 歳以上であった住民 77,235 名を対象にアンケート調査を実施し、49,603 名から有効回答を得ました。本研究ではこのうち、調査開始以前に転出または死亡された方、ソーシャルサポートについての回答がなかった方などを除いた 47,223 名について分析を行いました。平均追跡期間は 6.8 年間で、自殺死亡者数は 90 名でした。

情緒的・手段的ソーシャルサポートについて

ソーシャルサポートは、そのサポートの内容からいくつかの種類に分かれるとされています。本研究では、共感や安心、尊敬の提供などの情緒的ソーシャルサポートと、日常生活でのサービスや仕事による援助などの手段的ソーシャルサポートについて検討を行いました。ソーシャルサポートについてアンケートの回答から情報を得ました。具体的には、情緒的ソーシャルサポートとして、「困った時の相談相手はいますか」、「体の具合が悪い時の相談相手はいますか」の2つの質問を、手段的ソーシャルサポートとして「日常生活を援助してくれる人がいますか」、「具合が悪い時に病院に連れて行ってくれる人がいますか」、「寝込んだ時身の回りの世話をしてくれる人がいますか」の3つの質問を行い、それぞれのサポートについて「ある」「ない」から選択し回答をいただきました。解析では、情緒的ソーシャルサポートの2つの質問において1つでも「ない」と回答した方に比べた場合、2つとも「ある」と回答した方では自殺死亡リスクがどのくらい低くなるのか、また手段的ソーシャルサポートの3つの質問において1つでも「ない」と回答した方に比べた場合、3つ全てに「ある」と回答した方では自殺死亡リスクがどれだけ低くなっているか検討しました。

他のリスク要因の影響について

自殺に関して様々なリスク要因が知られており、さらにそれらの要因が複雑に影響しあっていると言われていいます。そのためこの研究では、ソーシャルサポートと自殺死亡に関連すると考えられる要因の影響を考慮したデータ解析を行っています。具体的には、年齢、性別、喫煙、飲酒、body mass index、教育歴、1日の歩行時間の要因について、ソーシャルサポートの有無によって解析対象を分けた際に、偏りがなくなるように統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

この研究の結果は、一般住民を対象とした大規模調査に基づいて様々な要因の影響を考慮した解析手法から得られたものです。ただし、この研究では、（１）ソーシャルサポートの評価について５つの質問しか行っていない点、（２）ソーシャルサポートの評価は調査開始時点にしか行っておらず、その後のサポートの変化の影響が分からない点、（３）全ての交絡しうる要因を考慮できていない点、などの限界もあります。
